



やまびこ

～ 外科受診のすすめ ～

文・副院長（外科部長）前田 裕巳

皆さんは、どのような場合に**外科**を受診するでしょうか？

内科－外科という対比で考えれば、薬で治療するところは内科、傷の手当ては外科というイメージでしょうか？

最近では、医学の進歩とともに、医療の専門分化が進み、同時に治療に当たっては、様々な職種が協力し合うようになったため、良くなった半面、どの診療科を受診すればよいのか、判断が難しいことが出てきました。

けがをしたときに縫ってもらうのは、外科と考えている方も多いとは思われますが、**皮膚の下の筋肉が切れていなければ、皮膚科**で処置をするケースが多く見られます。

また、**転倒して頭を打った**ときは、外科で診察することも多いのですが、表面の傷はともかく、転倒した原因や頭の中で異常が起きていないか等の方が問題になるので、**脳神経外科**や内科の受診をお勧めする場合があります。

強い腹痛の場合、急性腹症といって、緊急で処置を必要とするケースがありますので、この場合は、救急外来を受診いただいた方が、スムーズに対応できます。



前田副院長（外科部長）

外科は主に**腹部の手術を要する疾患**を担当していますが、**乳腺の検診**も担当しています。腹部には心臓血管外科、泌尿器科、婦人科が担当すべき病気もあります。どこの診療科を受診すればよいか分からない際は、**インフォメーション**で受診すべき診療科をお問い合わせください。

当院の外科病棟には、**胃・腸・肝胆膵の悪性腫瘍**のほか、**胆石症、兎径ヘルニア、急性虫垂炎、腸閉塞、大腸穿孔**など良性疾患の方も入院しています。

外来は、他の診療科、医院からの診察依頼、手術後の患者さんのフォローアップが中心ですが、**乳腺の検診、痔**などの肛門疾患で受診される方も目立ちます。

便秘症あるいは痔だと思っけていても、検査して、**大腸がんや直腸がん**が見つかる場合があります。また、貧血の原因を調べてみたら、**胃がんや大腸がん、痔**が見つかることもあります。**腹痛、体重減少、便・尿の色の異常**が、**外科的疾患の重要なサイン**である場合もあります。

最近の新型コロナウイルス流行による受診控えで、**手遅れ症例**の増加が問題になっています。消化器の病気の精密検査と考え、**かかりつけの先生のご紹介**で外科を受診してみてもはいかがでしょうか？



皆さんは手術室にどのようなイメージを持っていますか？

TVドラマで言えば、「白い巨塔」「医龍」「ドクターX」でしょうか。いずれのドラマも天才的な技術を持つ外科医のお話ですが、天才一人だけでは手術は出来ません。スムーズな手術を手助けする縁の下のプロフェッショナルが必要です。当手術室では、麻酔科医・看護師・臨床工学技士・放射線技師などの多くの職種で協働して安全な手術をサポートしています。



予定手術を受けるまでの流れ

通院中に手術を受けることが決定すれば、入退院支援センターで手術の内容に応じてどのような処置や検査を行うか、その実施内容や順序が書かれたスケジュールを配布しています。手術前後の食事や、いつから動けるのかなどわかりやすく具体的な説明を行い、手術前後の不安の軽減に努めています。

また入院後は、手術室看護師が手術前訪問に病室お伺いし、手術の流れの説明や疑問・不安の有無についての確認を行い安心して手術を受けられるように、外来・



病棟看護師とも連携をとっています。手術を受けることなんて、人生でそう何度もあることではありません。手術を受けられる方はご不安も多々おありかと思いますが、手術前訪問の際に何でも遠慮なさらずお尋ねください。

手術室では、経験豊富なスタッフが多数、万全の体制で手術を受けられる患者さんをお待ちしております。また、手術を受けられる患者さんの一日でも早い退院、社会復帰の一助となれるよう、これからも日夜研鑽に励み、より良い状態で病棟へお戻しすることを心がけます。どうぞ安心して手術にお望みください！！